

「キャリア教育」の視点に立った小学校家庭科学習の工夫

技術・家庭研究室 重見京子

【要 約】

近年、フリーターやニートの増加に伴い、「キャリア教育」の視点から義務教育の在り方を見直すことが求められている。そこで、小学校における「キャリア教育」の在り方について明らかにするとともに、「キャリア教育」の視点から小学校家庭科の指導事項を見直した。さらに、小学校家庭科に関する実態調査を踏まえて、「キャリア教育」で育成する能力と家庭科の指導内容とを関連付けた題材を検討し、指導計画と学習教材を考案した。

【キーワード】 家庭科 キャリア教育 指導計画 学習教材

1 研究の目的

「フリーター」が約 213 万人、いわゆる「ニート」が約 64 万人と増加している中、若者の勤労観、職業観をめぐる課題が取り上げられるようになった。現在、この社会的課題を解決するために、政府一丸となった対策が講じられており、改めて勤労観、職業観を育てる「キャリア教育」の視点から、我が国の教育の在り方を見直すことが求められてきている。この政府方針に基づいて、学校教育においても、小学校段階からの「キャリア教育」の推進が重要視されてきている。

そこで、「キャリア教育」の視点に立った小学校の家庭科学習を充実させるために、家庭科で学ぶことと働くこととを関連付けた指導計画や学習教材の工夫に取り組むことにした。

2 研究の内容

(1) 小学校における「キャリア教育」

ア 「キャリア教育」とは

平成 15 年 6 月に、文部科学大臣をはじめとする関係閣僚合意による『若者自立・挑戦プラン』が取りまとめられ、平成 16 年 12 月には、このプランの実効性、効率性を目的とした『若者の自立・挑戦のためのアクションプラン』がまとめられた。さらに、平成 17 年 10 月には、同アクションプランが改訂、強化されている。

このプランにおいて、「キャリア教育」は大きな柱として位置付けられており、文部科学省では、この方針に基づいて、義務教育段階からの組織的・系統的な「キャリア教育」を推進している。

その中で、「キャリア教育」とは、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえており、端的には、「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」としている。

イ 「キャリア教育」の基本的な考え方

文部科学省から平成 17 年 5 月に出された『キャリア教

育の推進に向けて』のパンフレットには、基本的な考え方と推進の方策が、次のように示されている。

学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階に応じた小学校段階からの組織的・系統的なキャリア教育の推進が必要
教育課程への位置付けとその工夫
各発達段階に応じた「能力・態度」の育成を軸とした学習プログラムの開発
体験活動等の活用 等

したがって、小学校においては、教育活動相互の関連性や系統性に留意しながら、小学校段階に応じた「キャリア教育」を推進するための教育課程の見直しが求められているといえる。

ウ 小学校の「キャリア教育」の課題

小学校では、学習指導要領に「キャリア教育」の文言はもちろん、「進路指導」の明記もないため、「キャリア教育」が教育活動として特に意識されていない状況にある。そのため、その方法や内容に基本的な理解がなされていないことが、課題となっている。

まず、だれが、どの内容を、どう教えるか等について共通理解を図り、教育活動として全教員が組織的に取り組む体制作りから始める必要がある。

エ 勤労観、職業観の概念

本研究では、勤労観を基盤として、職業観が培われるものととらえることにした(図 1)。

小学校の発達段階は進路の探索・選択にかかる基盤形成である。したがって、小学校においては、勤労についての考え方や感じ方などの勤労観の育成に重点を置いた指導の充実を図りたい。

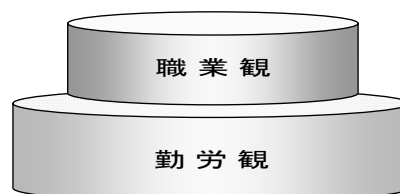


図 1 勤労観、職業観のイメージ図

オ 勤労観に関する学習指導要領の内容

小学校の学習指導要領における勤労観に関する内容は、特別活動、道徳、総合的な学習の時間を含め、相当数に上っている（表1）。

家庭科においては、教育活動全体を踏まえて、家庭での仕事の理解と役割分担に関する内容を、学習課題や活動の選択を取り入れて指導することが重要といえる。

表1 学習指導要領の内容

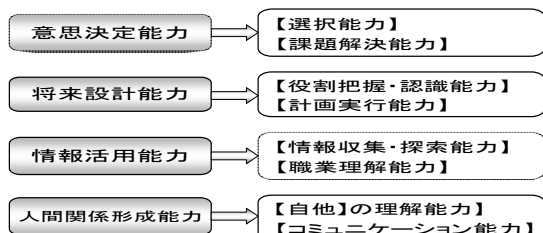
特別活動	【学級活動】 仕事の分担 【児童会活動】 協力 【学校行事】 勤労・生産体験
道徳	働くことの大切さ、進んで働くこと
総合的な学習の時間	自己の生き方、体験的な学習
各教科	・生活科や家庭科における家庭での仕事の理解と役割分担に関する学習 ・学習課題や活動の選択

カ 「キャリア教育」で育成する能力・態度

国立教育政策研究所生徒指導研究センターから、平成14年11月に発表された『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)』では、キャリア発達にかかわる諸能力として、四つの能力領域を八つの能力でとらえている（表2）。

これらの視点から、小学校高学年段階の勤労観にかかわる能力・態度を明確にし、学習指導要領の内容とうまくクロスさせれば、「キャリア教育」の視点に立った家庭科学習を充実させることができると考える。

表2 キャリア発達にかかわる諸能力

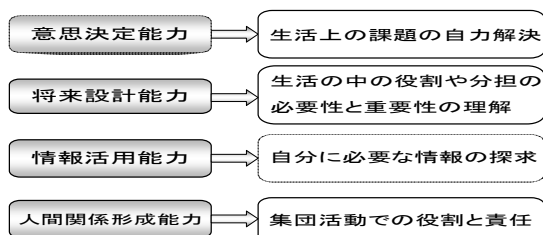


(2) 「キャリア教育」の視点に立った家庭科の指導
本研究では、『自分のしていることが役に立っている実感』を得させる家庭科学習を目指すことにした。

ア 小学校高学年で育成する能力・態度

小学校高学年で育成する能力領域の内容を、次の事項に絞り、家庭科では主に将来設計能力と意思決定能力の育成に重点を置いた学習を展開することにした(表3)。

表3 小学校高学年の能力領域の内容



イ 家庭科の指導内容と指導の重点

題材の設定に当たって、「キャリア教育」の視点から、小学校家庭科の指導内容を見直した(図2)。

「キャリア教育」と最もかかわりが深いのは、「住まい方への関心」(以下、「住まい方」とする。)&「家庭生活と家族」(以下、「家族」とする。)の内容で、次いで「生活に役立つ物の製作」や「簡単な調理」、「家庭生活の工夫」との関連が深いようである。

そこで、「住まい方」と「家族」の題材を中心として、自分が役に立っている実感を得させる学習を展開し、将来設計能力と意思決定能力の育成を目指すことにした。

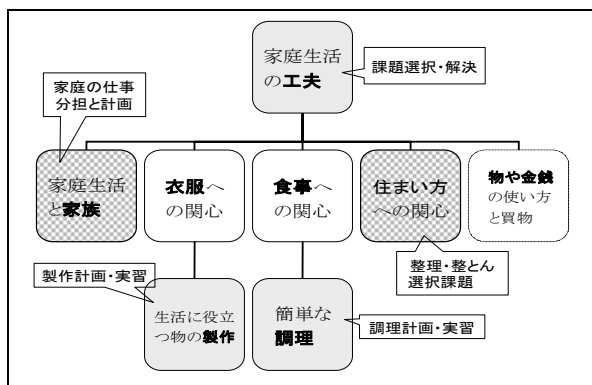


図2 小学校家庭科の指導内容

(3) 「キャリア教育」の視点に立った学習指導の工夫
ア 実態調査の分析・考察

中学1年生120名を対象に、小学校家庭科への取組状況と勤労観に関する内容について実態調査を行った。

(7) 「住まい方」と「家族」の内容について

「住まい方」と「家族」の内容は、小学校でよく頑張ったと答えた生徒が、「調理」や「製作」に比べて少なく、やや関心の低い学習であることが分かった(図3)。

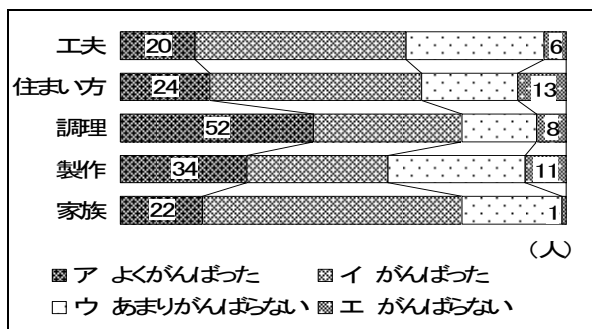


図3 実態調査結果

「住まい方」の学習は、掃除が嫌い、面倒くさいなどの理由で頑張れなかった者が多く、頑張ったと答えた者は、掃除がきれいにできた、ちゃんとできたなどの達成感を多く感じていた。また、よく頑張ったの方が、中学1年の現在も整理・整頓や掃除がよくできていると答えており、小学校の学習で、掃除への関心を高め、達成感を味わわせることが重要であるといえる。

「家族」の学習は、家族と触れ合えた、会話が多いなどが、頑張った理由として挙げられており、あまり頑張れなかった理由としては、自分の役割を時々忘れた、家族とあまり話さないなどとなっていた。また、「家族」の学習も、小学校でよく頑張った者の方が、家庭の仕事や家族の世話がよくできているという結果となっており、小学校では、自分の役割の自覚や家族との触れ合いを重視して、実践意欲を高めておく必要があると考える。

(4) 課題や活動を選んで行う学習について

課題や活動を選んで行う学習は、「住まい方」の学習を頑張れなかったと答えた生徒にも、比較的好まれていることが分かった(図4)。「家族」の学習についてもほぼ同様の結果が得られたため、課題や活動を選択する場面を効果的に取り入れることにする。

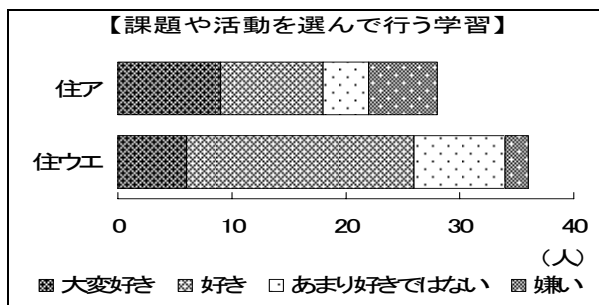


図4 実態調査結果

(7) 題材構成の検討

実態調査に基づいて、題材構成を工夫した(図5)。

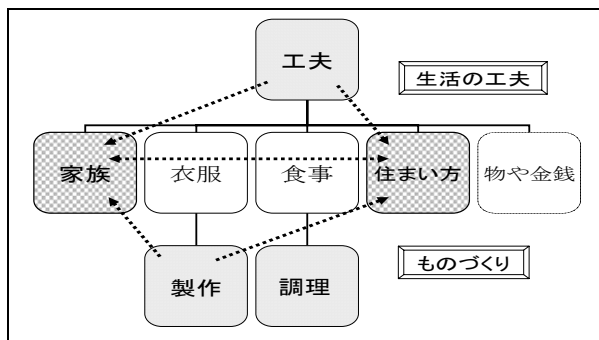


図5 指導内容の関連

「住まい方」と「家族」の学習に、「製作(ものづくり)」を取り入れて、関心や意欲を高めるようにする。

また、「住まい方」の学習は、頑張れなかった者が多くいたので、自分なりの生活の工夫ができる場面を取り入れて関心高め、自分の工夫したことが役に立っている実感を得させる学習展開にする。

「家族」の学習は、頑張れなかった者が最も少なく、一応関心はあると考え、仕事を継続させる工夫を加えて実践意欲を高め、家族のために役に立っている実感を得させる学習展開にする。

さらに、「住まい方」と「家族」の学習内容に関連を持たせて、より勤労観の育成を目指すことにした。

イ 「住まい方」の学習指導の工夫

(7) 指導計画の工夫

教科書の題材『身の回りを気持ちよくしよう』を基に、「キャリア教育」の視点に立った題材とするため、課題や活動を選択する場面を設定し、ものづくりを取り入れて掃除用具を工夫させることにした。さらに、環境に配慮した生活の工夫の内容を加えて、題材名『住まいのエコ・クリーン作戦』を考案した(表4)。

表4 「キャリア教育」の視点に立った指導計画

題材 住まいのエコ・クリーン作戦(5時間)	
1 学校エコ・クリーン作戦	意思決定能力
・学校エコ・クリーン計画を立てよう【課題・コミュ】	
・環境に優しい掃除を工夫しよう	【情報・職業】
2 エコ・クリーン作戦の実践と紹介	将来設計能力
3 家庭エコ・クリーン作戦	意思決定能力

本題材のねらいは、場所や目的に応じた掃除を工夫できるようにすることである。まず、学校のエコ・クリーン計画を立てさせ、各自が掃除場所等を選んで、目的に応じた環境に優しい掃除の仕方を工夫したり、簡単な掃除用具を作ったりする活動を取り入れる。工夫した用具で実際に掃除をする勤労体験を通して、自分のしていることが役に立っている実感を得させるよう構成した。

さらに、掃除の工夫を紹介し合ったり、家庭の仕事とかかわらせたりして、家族のためにも役に立ちたいという気持ちを高めるよう計画した。

(4) 学習教材の工夫

表4の環境に優しい掃除を工夫しようの学習のねらいは、学校の掃除場所や目的に応じて、掃除の仕方や用具の使い方を工夫したり、必要な掃除用具等を準備したりできることである。しかし、実態調査によると掃除への関心はやや低く、この意識の流れでは意欲の高まらない児童も出てくると予想される。

そこで、「簡単な掃除用具づくり」で掃除への関心を高めておいて、掃除の仕方を工夫させるなど、柔軟に展開できるように考えた。例えば、「場所に応じた、環境に優しい、簡単・便利な掃除グッズを作ってみよう」という学習で、掃除への関心を高めるようにする。その際、製作の苦手な児童のために、簡単な掃除用具や掃除のアイデア等を紹介する学習教材を工夫して、個に応じた支援を行う(図6、図7、図8)。

この学習教材で、自分なりに調べたり工夫したりすることへの意欲を高め、課題の自力解決を支援して、意思決定能力の育成を図るとともに、情報を集めたり選んだりする情報活用能力も身に付けさせるようにしたい。

なお、児童のアイデアは蓄積し、「アイデアお掃除集」として、家庭エコ・クリーン作戦で活用する。



図6 教材

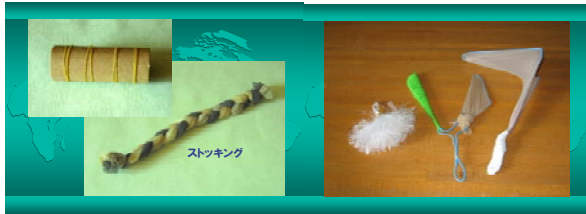


図7 教材

図8 教材

ウ 「家族」の学習指導の工夫

(ア) 指導計画の工夫

教科書の題材『どのように生活しているかな』を基に、「キャリア教育」の視点に立った題材とするため、課題や仕事を選択する場面を設定し、ものづくりを取り入れて、家庭の仕事を長く続ける工夫をさせる。その際、環境に配慮した生活の工夫の内容を入れることとし、題材名『わたしにまかせて家庭の仕事』を考案した(表5)。

表5 「キャリア教育」の視点に立った指導計画

題材 わたしにまかせて家庭の仕事(5時間)	
1 家族の生活と自分の役割	人間関係形成能力
2 自分にできる家庭の仕事	意思決定能力
・自分ができる仕事を増やそう	【選択・職業】
3 自分の仕事継続作戦	将来設計能力
・仕事を続ける工夫をしよう	【情報・コミュ】

本題材のねらいは、自分と家族とのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとす態度が身に付くようにすることである。まず、家族を支える仕事を理解させ、自分の役割を自覚させる。自分の仕事を決めたり増やしたりして、分担する仕事を工夫させる。実態調査によると、家庭の仕事への関心はあるものの実践意欲にやや欠けていたため、仕事を継続させる工夫を加えて、家族のために役に立っている実感をさせるよう計画した。

(イ) 学習教材の工夫

表5の『仕事を続ける工夫をしよう』の学習は、家族の一員として仕事を続ける態度を身に付けることをねらいとした、やや発展的な内容である。仕事を継続させるには評価が必要であると考え、簡単にできる評価の工夫を取り入れることにした。例えば、「仕事を長く続けるために、

環境に優しく、簡単・便利な物を工夫して作ってみよう」という学習で、実践意欲を高めるようにする。その際、児童の過重負担にならないよう配慮し、簡単なアイデア等を紹介する学習教材を工夫して、各家庭の実情に応じた取組となるよう支援する(図9、図10、図11、図12)。

この学習教材では、自分がした家庭の仕事を自分で認めたり家族に認めてもらったりする工夫に取り組みせて、実践意欲を高めるとともに、人間関係育成能力や計画を実行する将来設計能力を身に付けさせるようにする。



図9 教材

図10 教材

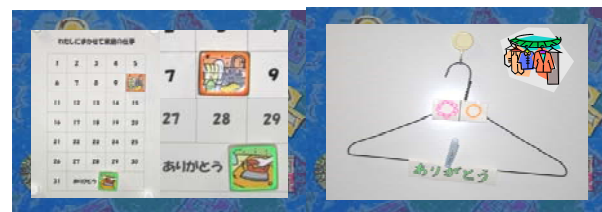


図11 教材

図12 教材

3 まとめと今後の課題

小学校においては、まず、全教員が「キャリア教育」に対する共通認識を持ち、これまでの教育活動を見直し、各教科等で「キャリア教育」の視点に立った工夫改善を積極的に進めていくことが重要である。

教科指導では、「キャリア教育」を特別な教育として加えるのではなく、指導計画を見直し、教科での学びと働くことや将来の生き方などを結び付けた指導を、学習指導要領に即して進めていけばよいことが明らかになった。

家庭科学学習においても、育てたい能力・態度を明確にして指導の重点化を図りながら、家庭科でねらう力と「キャリア教育」でねらう力とをうまくクロスさせた指導計画や学習教材を創意工夫することが有効であると考えられる。

今後は、授業実践を通して本研究の有効性を検証し、問題点や課題を明確にして指導の改善を図るとともに、中学校家庭分野における「キャリア教育」の視点に立った学習指導についても研究を進めていきたい。

主な参考文献

文部省 『小学校学習指導要領解説 家庭編』 1999
 文部科学省 『キャリア教育の推進に向けて』 2005
 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)』 2002
 三村隆男 『キャリア教育入門』 実業之日本社 2005